

千波湖環境学習会を開催しました

当協会は、水戸市との協働事業として、体験しながら環境問題について考える「千波湖環境学習会」を、月1回のペースで開催しており、今年度はすでに6回実施しました。

7月27日は、「森林の昆虫とヒカリモを調べよう」、8月17日は、「千波湖内に入って水生生物を調べよう」、9月7日は、「千波湖周辺湿地帯の昆虫を調べよう」をテーマに行いました。

7月27日は、茨城県環境アドバイザーの小菅次男先生と、茨城生物の会の染谷保先生を講師に迎え、少年の森周辺に生息する昆虫とヒカリモを観察しました。

最初に、千波公園の斜面林を昆虫観察しながらヒカリモの生息地に出かけました。ヒカリモは水環境や日照条件などに影響されるため、今回は見る事ができず、講師が用意したパネルで説明を受けました。

その後、少年の森周辺森林で昆虫を採集し、子供達は自分で採集した昆虫の種類や生態等について講師の説明を熱心に聞いていました。



【ヒカリモについて説明】



【千波湖に入って生き物調査】

8月17日は、当協会の職員が講師となり、千波湖に入って魚や水生生物を採取して調べました。

講師から湖内に入る時の注意事項を聞いて、協会が提供した魚取り網と飼育容器を持って、千波湖内に入りました。

参加した子供達は、親水デッキからボート小屋辺りまでの魚や水生生物を足で草をかき分けながら採捕しました。

水から上がった後、講師が前日に仕掛けておいたわなを、子供達がボートに乗り引き揚げました。合計12種類ほど捕れた魚や水生生物を水槽に入れて観察し、講師から生態や

特徴などについて説明を受けました。

9月7日は小雨に見舞われましたが、茨城県環境アドバイザーの廣瀬誠先生を講師に迎え、ハナミズキ広場の湧水水路に入り、生息する生き物と、その周辺の昆虫を観察しました。

湧水水路では、網を使って魚や石の下に生息する水生生物を捕り、ウキゴリやヤマトヘビトンボなど10種類を水槽に入れて観察しました。

また、広場周辺の昆虫は、ナガサキアゲハやツマグロヒョウモンなど24種類が採集でき、その生態等について学習しました。

今後の学習会は、10月19日に、「地球温暖化と植物の関係を調べよう」、11月16日に、「桜川に遡上するサケの産卵を観察しよう」をテーマに実施する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



【採取した生き物の説明】